中国語に於ける連体修飾統合型と主述統合型の文法的意義特徴：形容詞と名詞の組み合わせからの分析

メタデータ	言語: jpn 出版者: 公開日: 2017-10-02 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 大瀧, 幸子, Otaki, Sachiko メールアドレス: 所属:
URL	http://hdl.handle.net/2297/5254

中国語に於ける連体修飾統合型と主述統合型の文法的意義特徴……形容詞と名詞の組み合わせからの分析

大　滝　幸　子

§1．はじめに

中国語の形容詞は連体修飾統合型のなかに組み入れられた場合と、主述統合型のなかに組み入れられた場合とで、その使われ方が異なることがある。すなわち同じ形容詞と名詞の組み合わせが一方では使えるのに一方では使えないことがある。本稿はこの言語事実に注目して、（1）中国語に於ける連体修飾統合型と主述統合型との統合的意義特徴（各統合型に特有の文法的意義特徴）の違いと、（2）中国語形容詞の意義素記述において留意すべき一側面をあきらかにしようとするものである。

§2．中国語形容詞に有る〈名詞との共起制限〉

従来指摘されてきた中国語形容詞と名詞との文法的関わりには次のようなものがある。(1)

【1】中国語には、連体修飾語にしか使われない単語（「非謂形容詞」「区別詞」などと名付けられている）が存在し、その多くは名詞の表す事物が習慣的にどう区別されるべきものと意識されているかを表す。その中のいくつかは形容詞的な意味を表す。これらを述語として使うには構造助詞「的」を付けて名詞としたうえで、「……是～的」（……は～だ）とする。

①対になっている分類

男孩儿・女孩儿／公**鸡**・母**鸡**（めんどり）／单衣・夹衣（袷）

急性病・慢性病

②レベルの差（例文では名詞を省略してあるが実際は必要）

大型・中型・小型　初等・高等（「初**级**・高**级**」は形容詞）

③材料、用途、中間色彩

金笔・银笔（名詞形は「金子・**银**子」「**铜**・**铁**」）

民用车・军用车／粉**花**儿（ピンクの花）

【2】単音節の形容詞が連体修飾語になる場合には次のような制限がある。

以下、統合型を表現する際には形容詞を「A」名詞を「N」とし、連体修飾統合型をつくる構造助詞「的」を「d」と記すことにする。また、例文の前の＊マークは不成立を表す。

①名詞の表す事物がその単音節形容詞の表すスケールに依って習慣的に分類されている場合、「(単音節A)＋N」で表現する。複合語とみなし得るほど、固定した結合である。

白紙・(「白的紙」は対比表現) ＊白手／厚书・厚大衣・＊厚雪

②名詞の表す事物の分類というより文字どおりの飾り、すなわち事物を描写する叙述の営みは、「很＋（単音節A)＋d＋N」という2音節された形容詞に構造助詞「的」を加えた統合型あるいは「複音節形容詞＋d＋N」の複合型で表す。

很白的手・雪白的手・＊白的手／很厚的雪・厚厚的雪・＊厚的雪

【3】「A＋d」が名詞フレーズと同格の文法的機能をはたす「的字句」(～いの) となるかどうかについて次の制限がある。

①形容詞が単音節の場合に限る。ただし、単音節であっても、計量にかかわる形容詞(「多、快、远」など)、一部抽象的な意味のもの(「广，棒(すばらしい)」など) を除く。

また、【2】①②の制限は文脈の中では消滅し、例えば「白的」(白いの) は (白い紙、白い手) などを、自由に指せる。

②形容詞が2音節や重畳形であったり、付帯成分をもつ形の場合は名詞フレーズにはならない。(日本語にはこの制限がないので作文するとき、よくまちがえる。) 形容詞句として述語になる。

雪白的衣服→＊雪白的 (真っ白の) ←→他的衣服雪白的。

厚厚的书→＊厚厚的 (厚ぼったいの) ←→这本书厚厚的。

甜丝丝的菜→＊甜丝丝的 (甘味のあるの) ←→这种菜甜丝丝的。

很紅的花→＊很紅的 (赤いの) ←→这朵花是很紅的。

←→这朵花很紅。

ただし、「很＋A＋d」の形は述語に使われる場合、必ず「是～的」構文の話し手の確信をあらわす用法として使われる点で、「够」「挺」を程度副詞に用いた構造と異なっている。

本稿では以上3項目【1】【2】【3】を、中国語形容詞の下位分類、及び構造助詞「的」の文法的機能についての定説として認める立場から、用例を収集し考察するにあたって、これに抵触するものは誤用例または特例としてすべて除外した。また、連体修飾統合型と主述統合型とのアンバランスがこ

の定説に由来しているとみなせる用例も、すでに原因が解明されているものとして、考察の対象から取り除いた。

§3．統合型の差異が形容詞の意味に与える影響ーこれまでの研究

朱徳熙1956(a)によれば、中国語形容詞の重畳形は連体修飾語・述語の位置に置かれると〈程度の軽さ〉を表し、連用修飾語・（様態）補語の位置に置かれると〈加重、強調〉のニュアンスを帯びるという。管見の限りでは、統合型の差異が中国語形容詞の意味に与える影響について触れている論文はこれだけしかない。該当部分を引用する。

【例１】（翻訳 p56）

５．４　連体修飾語と述語の位置に出ると，完全重畳型は加重，強調のニュアンスをもたないばかりか，逆に程度の軽微さ（“一种轻微的程度”）を表す。比較せよ．

連用修飾語	補　語
大大地清一次客 （大大的に客を招く）	写得大大的贴在墙上 （デカデカと書いて壁に貼る）
高高地挂了起来(高々と掲げる)	挂得高高的（高々と掲げてある）
细细地看了一遍 （細かく細かく一通り読んだ）	碾得细细的 （細かく細かく碾いてある）

連体修飾語	述　語
短短的头发，大大的眼睛 （少し短かめの髪にばっちりとした目）	眼睛大大的，象个洋娃娃。 （目がぱっちりとして，お人形さんのようである）
高高的个子，四十来岁 （スラリと高いからだつきで，歳は四十そこそこ）	个子高高的。 （からだつきがスラリと高い）
细细的枝子（ほっそりした枝）	枝子细细的。 （枝はほっそりとしている）

【例１】に於ける比較は〈名詞と形容詞の組み合わせ〉対〈動詞と形容詞の組み合わせ〉であり、前者は形容詞の格（描写対象格）(2)表示に関わる表現であり、後者は動詞の流相と異相の区別に関わる表現である。(3)語義的にも文法的にもかなり大きな差異が認められる組み合わせであるがゆえに、意義の違いが一見してかなりわかるのも当然かと思われる。稿を改めて分析するこ

ととし、ここでは本稿の論旨に沿って「異なる統合型の持つ統合的意義特徴（当然異なる）が、形容詞の重畳形がもつ語義的・文法的意義特徴と呼応した結果、異なる意義を表現した」実例のひとつとだけ、解釈しておく。

日本語形容詞については、「計算機用日本語基本形容詞辞書ＩＰＡＬ」(4)（略称ＩＰＡＬ）が公刊され、「終止・連体・連用の各用法が、すべての形容詞のすべての意味に見られるわけではない」(5)ことがあきらかにされた。この辞書は、使用頻度の高い基本的な136語の形容詞を見出し語として選び、その意味を547に下位区分してある。橋本・青山1992(6)はその547の意味について【例２】ような集計結果を示している。少し長くなるが、引用する。

【例２】（p203～p205）

表１　形容詞のタイプ

タイプ	終止用法	連体用法	連用用法	下位区分数
I	＋	＋	＋	180
II	＋	＋	－	327
III	＋	－	＋	0
IV	－	＋	＋	13
V	＋	－	－	14
VI	－	＋	－	13
VII	－	－	＋	

終止or連体　40区分

表１では、名詞を修飾する用法を持つものは連体用法に「＋」をつけ、動詞や形容詞などの述語を直接修飾する働きを持つものは連用用法に「＋」をつけた。

タイプVIIの連用用法のみのもの（例：「彼はよく遅刻する」「珍しく沖縄に雪が降った」「危なく事故を起こすところだった」）は、ＩＰＡＬでは文全体を修飾する副詞と考え扱わなかった。また、「秋が深くなる」のように「なる」「する」を修飾するものは，ＩＰＡＬの連用用法の記述項目には含まれているが，「深く」が構文の中で義務的な要素になっているので、直接述語を修飾するものとは性格が異なると考え，本稿では扱わない注3。また、「国政の最高責任者の犯罪が及ぼした影響は、重く、かつ大きい（A0126）」のような並列も連用用法には含めない。タイプIIIの形容詞が一例もないのは、連用用法にこのような制約を加えたからである。以下、それぞれのタイプごとに例を示す。

（Ⅰ）青い（色が青か青に近い）

［終止：＋］空は雲もなくただただ青い。（A0118）

［連体：＋］花は枝先に数多くつき、青い空とのコントラストがいい。（A0512）

［連用：＋］ふだん仰ぎ馴（な）れた秋天も、青く澄んで高い感じがするが、寝ころんでみると、まったく感じがかわる。（A1029）

（II）苦しい（物や金銭が不足して、困った状態にある）

［終止：＋］連体後は家計のやりくりが苦しい。（A0512）

［連体：＋］苦しいやりくりが経済や世の中の動きを映し出しもする。（A1011）

［連用：－］＊苦しくやりくりする

（IV）軽い（あまり激しくない／簡単な）

［終止：－］＊その練習は軽い

［連体：＋］各チームとも軽い練習をして緊張維持に努めたが、「こんなに雨が続くなら、練習方法も変えなければ」という監督もでている。

［連用：＋］このあと、学校に戻り、校舎内などで軽く結習した。（A0718）

（V）危ない（実現する可能性が低い）

［終止：＋］また、十人当選は危ないとの見方もあった仙台市議選は、県議選での敗北が生んだ危機感もあって、十人全員当選という底力も見せた。（A0426）

［連体：－］＊危ない当選

［連用：－］＊危なく当選する

（VI）苦い（味わいたくないような，不快な）

［終止：－］＊その経験は苦い

［連体：＋］特に、石油ショック後の十年間の物価激動の苦い経験が、物価変動に対するわれわれの抵抗力を強化させた。（A1121）

［連用：－］＊苦く経験する

ベテランの翻訳者なら誰しもが“活用形が同じでも、文法的位置によって意味がずれる（特に連用修飾については訳語を変えることが多い）”という語

感を持っているであろう。実務の世界では目新しい発見でもなく、意味論的にも下位区分のしかたには異論の生じる余地があることもすでに指摘されてはいるものの、やはり「形容詞の辞書の記述に統合型を指定する必要があること」を証拠だてて主張したＩＰＡＬの功績は高く評価されている。(5)

【例２】の記述を本稿と関連づけるならば、本稿は【例２】の集計表のうち、IIIIV V VIのグループにあたる中国語形容詞と、それに組合わさる名詞との文法的結びつきを検討するものといえる。橋本・青山1992(6)によれば、ＩＰＡＬの中では主述統合型も連体修飾統合型も作れる形容詞のうち、主語とした名詞を逆に連体修飾できないものはわずか６例とする。（私は背中が寒い、私は寿司が良い、その作業は危険が多い、その土地は日射量が多い、その音は振動数が少ない、その人は年が若い）これらはすべて主述述語文であり、例えば、（＊寒い背中）とは言えなくても（背中が寒い人）といえることも指摘している。それに対し、連体修飾される名詞が終止用法の主語として使われるかどうかをみた場合、（親しい間柄）といえても（＊間柄が親しい）と言えない等、タイプIV・VIの26区分のみならず、合計95の下位区分に渡って見いだされたとしている。つまり、形容詞のタイプ分けの他に名詞との個別の語義的共起制限が存在していると認めている（明るい選挙、暑い盛り、惜しい人、悲しい目、堅い握手、大きい兄さん etc）。その結果〈（日本語形容詞においては）連体用法の方が終止用法よりも使われる幅が広いことが観察できる〉と結論している。

本稿はこれらの日本語形容詞および日本語統合型と中国語のそれとの比較対照を直接の主題とはしないが、以上の例の中国語訳を基礎資料の一部として随時参照として用いることにする。

§４．本稿の基本資料

§４－１．資料の収集方法

筆者は目下、「日本人学習者のための中国語形容詞用例集」（仮名）という作文用参考書を作るべく、日本語形容詞380個について中国語の翻訳用語の区別を検討している。その過程で、日本語で「ガ（ハ）＋連体修飾統合型（～い・な性格、～い・なもの etc）＋ダ」という判断文が好まれる文脈に於いて、中国語では主述統合型（形容詞述語または主述述語文「他性格很頑固」etc）を使ったほうが自然な表現と受け取られることに気がついた。また、動作の方法と不可分な連体修飾語（堅い握手をする etc）が、中国語では動詞と様態補語または連用修飾語との組み合わせで表される（「握手握得很緊」etc）ことも

目についた。総じて中国語では（日本語とは逆に）終止用法の方が連体用法よりも使われる頻度が高いといえる。

そこで、中国語で連体修飾の可能な範囲はどこまでか？§2【1】【2】【3】の制限以外にどんな制限があるのか？という問題意識のもとに、連体修飾統合型で訳された「A＋d＋N」の表現が、「N＋A」と逆転させた主述統合型の表現に変換できるかどうかについてインフォーマント調査を行った。(7)また、中国語の主述統合型が連体修飾統合型よりも自由な表現能力をもつように見えることから、主述統合型の統合意義特徴の内、なにが連体修飾統合型で拒否されるのか？という問題意識のもとに、「N＋A」の主述統合型に入った名詞と形容詞の組み合わせが「A＋d＋N」の連体修飾統合型のなかでも使えるかどうかをインフォーマント調査した。

こうして作成された資料は次のような特徴を持つ。

①§3【例1】【例2】で提出された資料に比べ、名詞と形容詞の固定した組み合わせが日本語の表現でも可能な例（少なくとも、連体修飾統合型または主述統合型のどちらか一方に於いては）を列挙してある。したがって、将来、日中対照研究の資料になり得る。

②§3【例1】が重畳形のみをとりあげていたのに対し、単音節、複音節、重畳形、否定表現など形容詞の多様な変化をカバーしている。したがって、なにが統合意義特徴の差異として共通しているのかを検証しやすい。

③参考図書(8)の中の用例もすべてインフォーマントチェックにかけ、「自分が使うか使わないか」という内省報告を各人3回ずつ、時を隔てて集めてある。辞書の用例の選択に異同や遺漏があるのは常であり、内省報告に異同があったり、個人についても報告に揺れがみられるのも当然のことといえる。本稿では三人の報告が一致した用例を考察の対象とした。（ただし、参考として揺のある用例もことわったうえで一部取り上げた。）したがって、用例の一般性（ノーマル度）が相当程度保証されたと考えられる。

§4－2．連体修飾統合型で使えて、主述統合型で使えない組み合わせ

資料一覧表【例3】は次の3項目で構成されている。

①形容詞と名詞とが連体修飾統合型で使われた用例を示す。

②【連体修飾語となっている形容詞について】主語として別の名詞をたてれば、①の連体修飾統合型が表示する統合意義（統合型でつなげられた複数の単語が表示する、統合意義特徴と語義的意義特徴の総体）が指示した意味領域にほぼ一致した意味領域を指示する主述統合型の述語として使えるかどうかを示す。(9)

③【被修飾語となっている名詞について】述語として別の形容詞をたてれば、①の連体修飾統合型が表示する統合意義が指示した意味領域にほぼ一致した意味領域を指示する主述統合型の主語として使えるかどうかを示す。なお、【例3】の分類分けは単語の語義に基づいた大まかなものである。

【例3】連体修飾統合型では名詞を見出しにする。

－1、A＝否定形

头脑	①不灵的头脑	②脑子不灵。	③头脑笨。
现象	①不正常的现象	②这样的现象不正常	

－2．N＝総称名詞 or 抽象名詞

动物	①聪明的动物	②这条狗很聪明。
工艺	①粗糙的工艺	②这盒箱子工艺粗糙。
行为	①奇怪的行为	②他的行为很（奇）径／令人奇怪。
东西	①甜的东西	②他买的东西甜。
颜色	①鲜艳的颜色	②他的画颜色鲜艳。色调／色彩鲜艳。
	①鲜明的颜色	②他的画颜色鲜明。色调／色彩鲜明。

－3．N＝時間、時節

时间	①短短的时间		③时间短暂。
夜晚	①漫长的夜晚		
	①闷热的夜晚	②夜里很闷热。晚上很闷热。	
秋天	①晴朗的秋天	②天空晴朗。	
冬天	①严酷的冬天		③冬季气候严寒。
早晨	①清爽的早晨		③早晨空气清新。

－4．N＝場所、位置

图纸	①粗略的图纸（設計図が書いてある紙）		②设计图粗略。
家庭	①贫穷的家庭	②家境贫穷。	③家庭生活贫苦
	①穷苦的家庭	②家庭生活穷苦。	

c.f　※他很穷苦．→他很穷．（「苦」は苦しみが生じる）

－5．N＝人の性状

心情	①烦闷的心情	②他心情烦闷。	
心灵	①美好的心灵		③心灵美／纯洁。
性格	①小心谨慎的性格	②他（的）性格小心谨慎。	

－6．N＝人の表情

眼光	①充满关怀的眼光	②眼光里充满关慕之情。
	①同情的眼光	

（動詞）①羨慕的眼光（眼神）　③目光里表現出羨慕之情。
神情（神色）①（有些）担心的神情（神色）

—7．N＝人の感情の動きを誘発する

情景（景象）　悲惨的情景（景象）　③情景（景象）凄惨。
情景（景象）让人覚得悲惨。
战争　①悲惨的战争　③战争凄惨。
c.f　悲惨的事故　事故悲惨（現状が人を悲しくさせる）
仇人（仇敌）①可恶的仇人（仇敌）　③仇人（仇敌）可恨。
旧事　①令人怀念的旧事　②往事令人怀念。
性格（動詞）①讨厌的性格（ワルイ＝イヤガラレテイル性格）③性格令人讨厌。
脸　①晒黑的脸　②脸晒黑了。（動詞結果補語明示）

—8．A＝動作と深く関わる

劳动　①剧烈的劳动　②舞台动作很剧烈。（ロックバンド）
假证　①明显的假证　②他做假证是很明显的。
批评　①严厉的批评　②他批评人很严厉。
打击　①严重的打击（集団対集団）③（受到的）打击沉重
分数　（「严格」なら述語も可）
①严的分数　②那个老师给的分数很严。
脚印　①奇怪的脚印　②这行脚印奇怪。（点点と続く足跡の様子）

—9．A＝四字句のうち前半の二字

音乐　①美丽的音乐　②音乐（美丽）动听。（見ため優先）
①优美的音乐　②音乐（美丽）动听。
心灵　①善良的心灵　②心灵（善良）美好／心地善良。
仪式　①庄严的仪式②仪式（庄严）隆重。
典礼　①庄严的典礼②会场庄场③典礼（庄严）隆重。

—10．その他

（人間に関する表現）

疑问　①单纯的疑问　②看法单纯。
记忆力　①高超的记忆力　③记忆力好／強。
情谊（友情）①美好的情谊　③情谊（友情）深厚／珍貴。

手艺　①漂亮的手艺　②手法漂亮。③手艺高超／出众。
话语　①热情的话语　③话语亲切。
偏见　①顽固的偏见　③偏见太甚。
（事物に関わる表現）
国歌声　①庄严的国歌声

§4－3．主述統合型で使えて、連体修飾統合型で使えない組み合わせ

資料一覧表は次の3項目で構成されている。

①形容詞と名詞とが主述統合型で使われた用例を示す。

②【述語となっている形容詞について】被修飾語として別の名詞をたてれば、①の主述統合型が表示する統合意義が指示した意味領域にほぼ一致した意味領域を指示する連体修統合型の連体修飾語として使えるかどうかを示す。

③【主語となっている名詞について】連体修飾語として別の形容詞をたてれば、①の連体修飾統合型が表示する統合意義が指示した意味領域にほぼ一致した意味領域を指示す連体修飾統合型の被修飾語として使えるかどうかを示す。ここでの分類分けは単語の語義に基づいた大まかなもので、【例3】に一致させてある。

【例4】述語となる形容詞を見出しとする。

－1．A＝否定形

不广　①范围不广　③很窄的苑围
　　①视野不广　③狭隘的视野
　　①见识不广　③很短的见识
不结实　①身体不结实
不亮　①屋子不亮　③阴暗的屋子
不严　①管理不严
　　①取缔不严
　　①限制不严　③放宽的限制
不正　①心眼不正
不重　①体重不重　③很轻的体重
不足　①经验不足

－2．N＝総称名詞 or 抽象名詞

苛刻　①现实苛刻　②苛刻的要求　③严酷／严厉的现实
快　①速度快
慢　①速度慢

弱　①力气弱

小　①力气小　③不大的力气

—3．N＝時間、時節……（欠．大量すぎる）

—4．N＝場所、位置

吵闹　①外面吵闹　①吵闹的邻居……（動詞）

闷热　①屋里闷热　②闷热的屋子

热闹　①外面热闹　②热闹的大街（上）

—5．N＝人の性状

笨　①头脑笨　②笨的脑子　③不灵／迟顿的头脑

大　①脾气大

倔强　①他性情倔强　②倔强的人

爽快　①他精神／态度／为人爽快　②爽快的人

顽固／固执　①他性情顽固／固执　②顽固的人

—6．N＝人の表情

美丽　①长相美丽　③漂亮的长相

—7．N＝人の感情の動きを誘発する……欠

—8．A＝動作と深く関わる

迟顿／慢　①反应迟顿／慢

粗　①语言粗　③粗俗的语言

漂亮　①他的答辩漂亮　③精采／高超／出色的答辩

—10．その他

（人間に関する表現）

卑贱／下贱　①他出身卑贱／下贱②卑贱／下贱的人③低贱的出身

牢靠　①想法牢靠

稳妥　①想法稳妥　②稳妥的办法

浅　①印象浅　不深的印象

（很）少　①经验很少　②不足的经验

弱　①身体弱

疼　①虫牙疼

（太）横　①这个孩子太横了

（事物に関する表現）

锋利　①小刀锋利　②锋利的刀尖

好看　①字好看　③写好的字／漂亮的字

严峻　①事态严峻　②严峻的事实

(很)好　①光线很好（日当たりがよい）

(動きに関わる表現)

快／慢　①汽车快／慢

松　　①塞子／螺丝很松　②很松的塞子／螺丝

§5．連体修飾統合型と主述統合型の統合意義特徴

§5－1．考察の前提とする仮説

ある名詞と形容詞の組み合わせが、連体修飾統合型の中では使われ、主述統合型の中では使われない（その逆もある）場合、その原因を語彙上の区別とし、どちらかの意義素が変化した結果であってただ覚えるしかない言語事実とみなす立場がある。しかし、複数の用例に一致した傾向がみられたなら、それは連体修飾統合型（以後、T型と略す）と主述統合型（以後、S型と略す）の統合意義特徴が異なるためと考えてよいであろう。

同じ意義素の対が一方の統合型で組み合わせが可、一方の統合型で組み合わせが不可の場合、双方の統合意義特徴のなかでその組み合わせを拒む要素と組み合わせを推進する要素が互いに綱引きをしていると予想される。そこであらかじめ、統合意義特徴を二つの方向から考察することを確認しておく。

【統合を妨げる方向（一方向）の影響を与える】

統合型に入ろうとする二つの意義素のうち、どちらかの文法的意義特徴または語義的意義特徴に対して共起できない内容を持つ。(10)

【統合を容易にする方向（＋方向）の影響を与える】

そのままでは共起できない二つの意義素のうち、どちらかの文法的意義特徴または語義的意義特徴に対して内容を補足して共起させる。

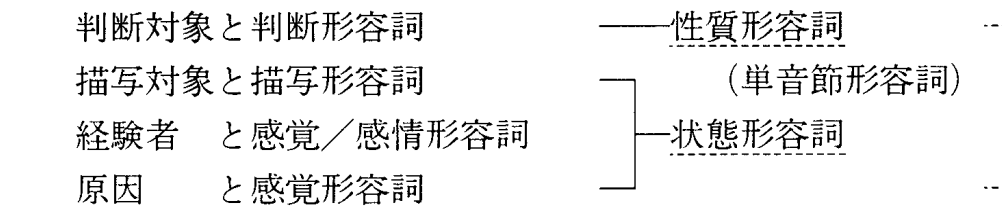
まず、S型に対しては、形容詞が内包する格を定義づける次の統合意義特徴があるものと考える。

【S型の統合意義特徴①】（【S型格】と略称する）

形容詞の意義素のうち、<u>他の形式によって表されることを前提とした弁別的意義特徴のグループ</u>をそれ自身の意義素のなかに含む名詞を、主語として形容詞の前に置く。

この（アンダーラインをひいてある）形容詞の弁別的意義特徴のグループのなかには必ず「名詞が指示する外界の意味領域と形容詞が指示する外界の意味領域との相関関係の中から抽出される関係概念」すなわち「格関係」を表示する文法的意義特徴が含まれているものとする。中国語形容詞と名詞との格関係には4種類のものが認められる。（大滝1993）

【格関係】主語が表示する格と述語となる形容詞



筆者の調査では単文において一人称主語しか取れない中国語の感覚・感情形容詞は見つかっていない。すなわち、中国語に於ける感情形容詞は、「人間（不定人称者）の感覚・感情」として述べられれば充分であり、日本語のように文の終わりに「叙述の営みを行う“わたし”（第一人称者）[11]の感覚・感情または“わたし”の誰かに対する判断」だと断りを入れて、その叙述の真実性を保証する必要がない。[12]中国語では、感覚・感情は見て聞いて他人からも判断できるものと捉えられ、原則として描写の可能なものとみなされている。また、感覚形容詞について、原因格（人にある感覚・印象を与える原因）を設定すれば、「这套被子很暖和」「屋子很暖和」etc、ポピュラーな表現をそのままに解釈できる。原因格は人間（意志感情をもつ）によって担われることはない。

とまれ、本稿の資料として取り上げた【例３】【例４】では描写形容詞の用例が圧倒的に多く、また中国語形容詞全体に対する数量的割合からいっても描写形容詞が圧倒的多数を占めている。描写形容詞に対して語義のうえでも、より一層の詳しい分析が必要と思われる。

さらにまた、通常話し手が文音調をかぶせて文として言い切ることの多いＳ型は、言い切るために叙述内容を整えようとする発話時点で、文を終止させる文法的意義特徴を文音調によってつけ加えられるものとみなす。

【Ｓ型の統合意義特徴②】（【Ｓ型文】と略称する）

主語述語双方に対し、①述定（＝話し手が主語述語その他の文法成分が表示する叙述内容に対して、それが発話時点で真実であるか現実であるかの判断・評価を述べる。）②伝達（＝Ａ、話し手が聞き手との人間関係を意識したうえで、文体を選んだり、聞き手に行動を起こすように働きかける。Ｂ、話し手が聞き手の知識量と内容を考慮して、叙述の順序を変更したり、とばしたりする。）という２種類の文法的意義特徴を文脈の支えなしに受け入れることができる。

また、同時に主語に対しても、①提題（＝述語となる単語が求める格関係から離れて話し手が伝えたいテーマを比較的自由に提示できる）

②既知（＝話し手が聞き手の知識量と内容を考慮して、「聞き手が了解で

きる範囲内の情報である」よう、叙述を整える。）という２種類の文法的意義特徴を文脈の支えなしに受け入れることができる。既知と提題が加わった主語は「主部」として、述語に述定と伝達の加わった「述部」と対応する。[13]

【Ｓ型文】は、主述統合型全体が他動詞の目的語となったり、複文の前句になった場合には機能できない。しかし本稿でのＳ型用例はすべてこの【Ｓ型文】が機能している用例、すなわち文として言い切れるものを選んだ。

【Ｓ型文】のうち、既知は明らかに単語どうしの統合を妨げるマイナス方向の働きをするが、他の統合意義特徴は表現の恣意性を拡大するプラス方向の働きをするものと考えられる。

つぎに、中国語形容詞を連体修飾語とするＴ型の統合意義特徴については、定説の§２【１】【２】【３】に基づき、次の点が公認されているといえる。

【Ｔ型の統合意義特徴①】（【Ｔ型類】と略称する）

被修飾語に位置する名詞が指示する外界の事物を、修飾語に位置する形容詞の指示する性質を持つか持たないかで、グループとして類別する（習慣のあることを要求する）。[14]

つまり、Ｔ型は形容詞よりも名詞の意義素を弁別するのに有効であり、【Ｔ型類】の統合意義特徴は形容詞と名詞の結びつきに対しマイナス方向に働くといえる。

さらにまた、動詞を含むＴ型については従来より、制限用法と非制限用法の区別、内の関係と外の関係の区別または連体補充節と連体修飾節の区別、「ＤＪ的＋Ｍ」の２種類の類型などが、それぞれ英語、日本語、中国語を分析対象として指摘されている。[15]本稿の意義分析の立場から言えば、この３種類の区別のたてかたはすべて，被修飾語となる名詞が連体修飾語のなかの動詞を持つ格を担うか担わないかという区別として、捉え直される。

形容詞の場合は、時間空間、抽象的事物や概念もみな、描写や判断の対象すなわち格を担える。そのうえ、形容詞の意義素は原則として叙述時点・叙述場面（＝第一人称者がこの時・この場面の事柄を述べると指示した時と場面。特に指定しなければ発話時点・発話場面に一致する。）から何の影響も受けない論理を表示するものである。[16]このように視点を広げて考察しようとするならば、形容詞はその要求する格を原則として主語の位置に求めるほか、被連体修飾語や文中の言語形式に必ず何らかのメカニズムに拠って充たさせているものと想定できる。本稿ではＴ型において被修飾語と形容詞の間に潜在的な関係が成立する場合、その格関係を成立させるのはＴ型の統合意義特

徴であると考える。大滝1993では感覚・感情形容詞を連体修飾語にするT型の統合意義特徴として次のものをとりだした。

【T型の統合意義特徴②】(【T型感】と略称する)

連体修飾語が感覚・感情形容詞である場合、被修飾語に人間を表す名詞がきたなら、経験者格を担わずに、「他人にそういう感覚・感情を与える様子をした人間」という描写格を担う。[17]人を表す被修飾語が経験者格を担うのは、心理動詞が連体修飾語になった場合に限られる。

§5－2.【例3】【例4】の項目別分析とその結果

－1. A＝否定形

否定副詞「不」の文法的意義特徴を「『第一人称者が格を表すべき位置で述べた意義(素)が、統合されるべき位置に置かれた形容詞・動詞の格(を構成する弁別的意義特徴)を表せない』と第一人称者が決定すること」とする。そして考察を始める前にS型とT型の統合意義特徴のについて、次の2点を再確認しておく。

①【S型文】と共起する「不」は話し手の判断となる。発話時点での判断であるのでバラエティーにとむ統合ができる。T型では話し手の最終的判断が述べられることはありえず、原則として第一人称者が学習済みの、常識としての組み合わせの可否を述べる。(ただし、厳格に言うならば、話し手が真実何を思っているかは言語表現では永遠に保証できず、時には表現者としての人格と発話者の人格が意識的にまた無意識のうちに分裂・矛盾していることもありうる。本稿では複雑かつ文学的解釈を要する用例は扱わない。)

②一方、「不」で形容詞を否定した統合型が連体修飾語になることは、【T型類】と原則的にミスマッチである。なぜなら否定された形容詞には特定の意味領域がない、すなわち具体的にどういう状態、性質なのか何も表していない以上、名詞が指示する事物を分類することはできない。したがって「否定型で表現するくらいなら、肯定型で表現してしまう」という根強い語感が行き渡っている。T型では【肯定型優先の原則】が存在する。

それでも、否定型は日本語に比べればまだ使われ易い。それには次の二つの原因が考えられる。

①上述の如く石毛智1991[18]の指摘した「否定形容詞」とでも呼ぶべき形容詞の一群がある。「不正常」もこの類である。

②単音節の判断形容詞のうち、事物の形状を表すもの、そして量的に＋方向に計っていくスケールを表示する「大、長、高、厚」etc は、それぞれのスケールの概念「大きさ、長さ、高さ、厚さ」etc を代表することができる。[19]

その否定形はそれぞれ「小、短、矮 or 低、薄」etc の肯定形の意味領域を指示するとみなしてよかろう。二音節にして発音のバランスをとりたい(アクセント素が関係すると思われる）場合や、断定を避けたい（マイナス方向に計量することが好ましくない）場合によく使われる。

具体例をみていく。【例３】－１、Ａ＝否定形で挙げた、Ｔ型に入れてもＳ型に入れない名詞と形容詞の組み合わせの例はこう解釈できる。

「头脑」は思考力という機能を表す。それに対し、述語「灵」の「回転が早く（または活力が盛んで)、よく機能を果たす」という弁別的意義特徴にみあった格を担うのは、肉体上の器官も指せる「脑子」のほうがふさわしい。Ｔ型では「不灵活」のハショリ形として「不灵」が使われたと考える。(「不灵活的头脑」は可）Ｔ型でハショリ形がよくつかわれるということは【例３】－９、の如く、四字句のうち前半の二字を用いた表現がずいぶんたくさん存在することで実証されたものとみなしたい。しかし、ここでもう一つ考察を加えなければならないことがある。【Ｓ型文】の加わった「头脑灵活」では、その叙述が「不」で不適当と判断されていることになるにも関わらず、その判断まで含めてハショリ形が成立できるのだろうか？……石毓智は1991は「有点儿、很、最」で程度を分割できる形容詞は原則として「不」で否定することができるとする。その例外として「不」をつけたまま「有点儿、很、最」の修飾をうけれる形容詞として、「不利、不幸、不像活、不干净」などと共に「不灵活」が挙げられている。この論文は中国語形容詞のなかで否定できないものを「定量形容詞」or「肯定性形容詞」と名付け、さらにグループわけしてその意味的特徴を探ったものであるが、その論旨に沿って考えてみても「不灵活」を全体として一つの描写形容詞であるとみなしてよい。したがって「不灵的头脑」の「不灵」は「不灵活」のハショリ形と解釈できる。

－２、Ｎ＝総称名詞 or 抽象名詞

「不正常的现象」の「现象」は抽象名詞である。また、【例４】－１、Ａ＝否定形で挙げた、「范围、见识、视野」「心眼」なども抽象名詞とみなせる。次項の総称名詞と抽象名詞の用例とともに考察する。

抽象名詞は「不定人称者が外界の事物を認識する際、その認識行為がどういう角度からおこなわれるか、どういう性質・特徴に注目しているかという精神活動のありかたとその生産物を指示する意義素」を表示する名詞である。したがってＴ型については原則として【Ｔ型類】よりも連用修飾的な「第一人称者がどう認識したか」という認識結果を加えて表現しやすい。

そこで、抽象名詞をＴ型の被修飾語に使う場合、普通は次の統合意義特徴

のどちらかと共起する。

①T型が述部の中で「是」「有」の目的語として置かれ、主部が指示した「特定の意味領域」が、T型の統合意義が指示する意味領域に重なり合うと評価判断する。言い替えるなら、T型のなかの形容詞は被修飾語について叙述するのではなくて、単文の主部について叙述し、抽象名詞は主語の一部を指示するのではなくて、主語の指示する意味領域を認識する方法を表す。その統合意義特徴を【述語内包T型】と名付ける。

「这是不正常的现象。」「他（对这个问题）只有很短的见识。」[20]

②連体修飾語として指示詞を使い、発話場面・発話文脈（・発話時点）で何が認識対象とされたか、またはどういう判断結果がだされたかを自動的に（発話文脈で述べられていようといまいと）特定する。既知の叙述を加えるので主部にもなれる。【T型特定】の統合的意義特徴としておく。

「这样的现象」「这么个意见」etc。

また、S型については認識する人物が誰か、認識の対象が何か、などを文頭でさらに述べておかない限り、【S型文】の既知と共起して単文の主部になることはできない。S型の主語になるためにさえ、次の条件が必要である。

①主述述語文中でS型全体が述部に置かれ、「特定の意味領域を表示する主部」の状態を描写する＝S型は主部の意味領域に含まれる特定の様相の中から、一部の特徴を判断対象として取り出して描写する統合に含まれる。この統合意義特徴を【述部担当S型】とする。「他经验丰富」etc。

②発話文脈においてS型どうし（そのうちの主語）を対比する論述が行われる場合、複数並べられた主述構造の中の主語の一つとして形容詞の何らかの格を担う。【S型対比】の論理意義特徴と呼ぶことにする。[21]

「范围不广、影响力也不大。」etc。

これらの文法的意義特徴は抽象名詞を主語とするための条件になるとともに、単音節形容詞を述部の一部として使って、言いきるための条件ともなる。

具体例について見ていく。

上述のごとく、「不正常的現象」は【述語内包T型】の統合特徴、また「范围不广」etcは【述部担当S型】や【S型対比】の統合特徴が加わるという各件のもとで、統合することができる。ただこれらの統合を促進するプラス方向の統合意義特徴は、発話文脈によって補充できる場合、すなわち既知であり、言わなくても聞き手が了解できるという場合は言語で表現されない事が多い。したがって、語感は「（それだけで）言える、使える」として意識される。

「現象不正常」を不成立とする語感は「現象」の意義素から由来すると考えられる。「現象は」【T型特定】の統合意義特徴を加える、すなわち新たな言語表現を加えた（「这样的现象」）場合に限り、主部になれる。単独では対比するにふさわしい名詞が見つからないうえ、様相のどの部分をとりだして判断対象にしたのかも定められない。むしろ「ある時期のどれと定められない全体の様相」を指示する単語なので、主語には設定し難い。

一方、【例3】－1、で「不广的范围」etc を不成立とする語感はまず第一に「广」という形容詞に起因すると考えられる。現代中国語では「广」は抽象的概念だけを判断対象とする。具体的空間の広さについては、ものによって「大」「宽」「宽敞」etc を使い分け、反対の判断を表現するのにも「不」で否定して表現するほか、「小」「窄」「狭窄」etc も使用できる。具体的空間に判断をくだす具体的な指示領域を持つ形容詞で抽象名詞を修飾した場合、つまり肯定型優先の原則に従うと（「很窄的范围」「很短的见识」etc）、時には統合型の意義に変化が生じる。(20)

【例4】－2、「速度快」「力气弱」は単独で言えると報告されてはいるが、インフォーマントの頭の中では、【述部担当S型】「这辆车速度快 etc」として意識されていることは間違いない。スケールだけを表示する主語を持つ、述部担当専用のS型もいくつかあるようであり、それらは主語の独立性がないためにT型の被修飾語にすることは不可能である。また、抽象名詞の用例「现实苛刻、※苛刻的现实」は特殊な文脈【S型対比】の中で成立する表現として、こう解釈できる。

例：我想得太简单了、现实苛刻。

「苛刻」の意義素は（人への要求が厳しい）。「现实」を描写対象格にすると、人間との関係付けが抜け落ちることになる。従って、文脈の中で人への要求が厳しくないことと対比されることが必要になる。日本語でいう（現実は厳しい!）は普通の発句では「实际情况相当严厉」etc。

総称名詞は「意義素体系のなかで同一の弁別的意義特徴を保ちながら、示差的意義特徴が順次減らされていく上向きの階層を成すグループのなかで、下位の意義素に対して示差的意義特徴がより少ない上位に位置するの意義素をもつ名詞」のことである。（生物←動物←雄 or 親←人間←父）etc のグループで上位にあるものほど具体的な意味領域を指示しにくくなっていく。言語活動のなかで用いるためには、聞き手が了解できるように配慮されねばならないので、指示詞を加える【T型特定】による類別はより具体的に意味領域

を絞り込む叙述として使用し易い。つまり、名詞が総称名詞として上位にあればあるほど、主語にたてるには【T型特定】が必要になる。総称名詞を単独で主語に置いて文を成立させるためには、同レベルの位置にある総称名詞を【S型対比】でS型を複数つなげて論述するしかない。

【例3】では、総称名詞をS型で使うために【T型特定】を加えたり（「他的行为」「他买的东西」etc）、抽象名詞を【述部担当S型】に位置づけたりしてある。（「他的画颜色鲜艳」etc）。

—3、N＝時間、時節

【例3】で挙げたT型の用例は、S型になれない理由が3種類のパターンに分かれる。

1、「短短的」を「很短」に変えれば、T型「很短的时间」もS型「时间很短」も可能になる。判断形容詞＋判断の確定であるならば、抽象名詞「时间」は自由に判断の対象となれるが、判断形容詞が重畳形になった場合は、原則としてスケールをあてない描写対象形容詞となる。しかも描写対象格にあらわれる描写の対象は、S型では視覚聴覚をはじめ五感で捉えられる性質であることが求められるようである。

T型として用いられる場合には「离限期还有短短的时间」etc【述語内包T型】をかぶせられ（「很短」でも同様）、抽象名詞も被修飾語に用いられる。

「漫长的」と「很长」の関係も同様と考えられる。さらに語義のうえでも「漫长」は（限りなく長い時間、距離）を表示するので、「夜晚」程度の長さの描写には不適当とも考えられる。「时间漫长、历史漫长」etc なら可。

2.「夜晚」と「夜里」「晚上」とを比べると、同じ時間を表す名詞ではあっても抽象名詞：具象名詞（叙述時点を指定できる…～の夜に）という違いが見いだせる。また、量詞「一个」と呼応する意義特徴が、一方は個数（一夜）一方は全体（一晚中）となり、時の捉え方に差がある。したがって単文を成立させる【S型文】が機能し易いのは、「夜里」「晚上」のほうである。ただし「夜晚闷热」と「早晨还凉」etc を【S型対比】をすれば、使えるようになるという内省報告もある。

3.「清朗」「严酷」「清爽」はともに描写対象に関する語義的意義特徴を持っている。それは（空模様）（人間へ悪い影響を与える物）（空気や風）であり、S型の主語の位置に置かれる名詞はその意義素の中にこれらの意義特徴を持たねばならない。しかし、T型においては、これらの語義的意義特徴の指示する事物が、被修飾語の指示する意味領域の中にふくまれておかしくないと社会的に公認されてはじめて使うことができる。（秋→秋晴れ）（冬→厳しい

生活条件）（朝→爽やかな空気）etc の固定された連想が成立することによって、単語どうしを組み合わす統合意義特徴を【T型連想】と名付ける。

【例4】では、感覚・感情形容詞の多くの用例が、主語の位置に時間を表す名詞を置いて、その叙述時点において述語の表す感覚（全身感覚）・感情が生じたとする「今天很暖和」etc。しかし、主語の位置にあっても叙述時点はその感覚・感情の背景を示すのであり、格を担ってはいない。したがって、T型の被修飾語になることもない。用例は多すぎて枚挙にいとまがない。

—4、N＝場所、位置

【例3】をまず検討する。「**图纸**」には「**设计图**」が描かれているという弁別的意義特徴があるので、【T型連想】の助けを借りて、「粗略」（図案＝設計図の大ざぱさ）を表示する形容詞の修飾を受けることができる。しかしS型では連想が働かないので、「**图纸**」が図案のかわりをすることはできない。

（貧しい）の意味領域を指示する中国語形容詞には「**贫乏**」（生活するための必要量が充たされない）「**穷**」（お金がない）「**贫穷**」（ある地方が生活環境、資源に恵まれない）、「**贫苦**」「**穷苦**」（生活苦を与える）etc がある。「**贫穷**的家庭」は【述語内包T型】として「**这一带有很多贫穷的家庭**」の如く使われる。また「**穷苦的家庭**」は「家庭」が「生活」の舞台である（生活に含まれている）という【T型連想】によって統合される。

【例4】では「屋里」と「屋子」、「外面」と「大街（上）」の組み合わせをそれぞれ比較すると、前者「～里」「外面」は場所詞専用の単語であり、（～の中）（～の外）という基準地点（～）との位置関係を表すものである。したがって叙述時点で始めて相対的位置がさだめられ、文学的な特殊な文体を使うのでなければ、連体修飾をうけることはない。なお、「屋子里很**闷热**」は、ある場所で、ある経験者（経験者格）が、ある感覚を有したことを表し、「屋子里」は形容詞の格を担わない修飾語である。

一方後者の「屋子」「大街（上）」は、場所を表わすとみなせもするが弁別的意義特徴としては（建造物のなかの用途別に区切られた空間）（町の空間）を表示するものである。したがって、例文中の「屋子」は感覚形容詞「**闷热**」に対し（そういう感覚を生じさせる空間＝スペース）として原因格を担い、「大街上」は描写形容詞「**热闹**」に対しては描写対象格を担うことができるゆえに、T型の被修飾語になれる。

—5、人の性状

【例3】では「心情」「性格」がT型で描写対象格であることを示すと同時に、S型としては【述部担当S型】として用いられることが示されている。

それに対し、【例４】では「脾气」「性情」「精神、态度、为人」が用例中の形容詞「大」「倔强、顽固、固执」「爽快」と統合されるときには【述部担当S型】専用となりT型では統合されないこと、T型の統合の時には「性情」「精神、态度、为人」がすべて消去され、S型の主部であった「人」が被修飾語となって、「～的人」というT型になることを示している。

「心情」は感情の動き方、変化の様子を述べる場合に用い、「性格」は（強い、弱い）を中心とした個人の資質を述べる。ともに人間の内面を描写するのに対し、「脾气」は「好脾气」など判断形容詞と統合されて人間の気質を分類する観点を持つ。「性情」は他人への対応が穏やかであるかどうかをはじめ、社交性に重点を置いて人間を見るが、中国語では人間関係が名詞の意義素に関わっている場合は、T型（「～的性情」etc）が成立しにくい傾向が認められる。

また、「精神」は行動にとりかかっていく積極性、「态度」は人の立ち居振る舞いに現れる精神性、「为人」は行動パターンに弁別的特徴があるので、外見からの判断がしやすい「态度」だけが形容詞とT型で統合しやすい。

「严肃的态度」「公平的态度」etc。

【例３】の「心灵」は（混じりけの無い、無垢な心 or 考え方）であり、基本的に（良いもの）という語感がある。「美好」は（ある理想からみて要件を備えている）ことを表示するので、被修飾語の「心灵」に【T型連想】が掛けられることに依ってT型に統合されたと解釈できる。

【例４】の「头脑」と「脑子」の区別は、機能とその機能を果たす器官（or 機関）と捉えられる。「笨」も基本的には（頭脳プレイ、手仕事がうまくできない）意味を表示するが、一方（器官がうまく機能できない）という構造上の特徴も表す。

―６、N＝人の表情

【例３】の「同情、羡慕」「担心」は心理動詞であり、それぞれ「神情」「眼光」を修飾しているが、その修飾の仕方は格関係に結ばれたものではなく、T型の非制限用法、外の関係（＝格関係をもたない→～の心理の体現するまなざし、気配）の修飾をしている。【例４】では「长相美丽」が【述部担当S型】としてひとまとまりに扱われ、文として完成するにはさらに主題「他」などを文脈でつけ加える必要がある。

―７、N＝人の感情の動きを誘発する

【例３】の「悲惨的战争」「可恶的仇人」etc は連体修飾格の叙述の営みの中で【T型類】（範疇分け）ではなく、「意味の取り出し」（被修飾語の名詞の

中の意義特徴の一つをとりだした叙述—【T型取り出し】と名付ける）をした例とみなされる。S型では述語として「凄惨」（不定人称者の感情への打撃を含む意義特徴が加わる）や「可恨」を使って始めて、主語からの意義の特徴の取り出し、すなわち当たり前のことをいう叙述から、一歩深まった叙述がなされたと捉えられる。「战争悲惨」「仇人可恶」に対してインフォーマントは「弱すぎる、何も言っていない」という語感をもつ。

「悲惨的情景」は【述語内包T型】であるが、主部として用いられた形式が「情景」と同じ意味領域をもてない以上、S型への変換は無理である。

—8、A＝動作と深く関わる

【例3】「剧烈」「严厉」「严重」は、述語、連体修飾、連用修飾すべての用法を持つ形容詞である。また、それぞれが修飾する「劳动」「批评」「打击」は名詞、動詞双方の文法的意義特徴をもつ。複数の文法的機能を発揮できる場合、原則として動詞＞形容詞＞名詞の優先順位が成り立つが、この原則はT型からS型に変換する場合にも、適応されることがある。つまり、主部に置く描写対象格をはっきり動作・行為を表す表現（「动作」「批评人」」）に変えることがある。「严」「明显」はともに動作・行為への評価を表すので、述語として描写対象格を求める場合は動作・行為「给分数」「作假证」etc を主語にとる。

【例4】では「漂亮」と「答辩」との組み合わせが、「漂亮、精采、高超、出色」（優れている）の類義語間の示唆的特徴を示す例として興味深い。

S型に「答辩」が置かれた場合は「漂亮」が動作・行為への評価、この場合は答える手際の良さを表す。T型に「答辩」が置かれた場合は動作・行為の結果つまり答弁の出来映えを表し、形容詞がその完成したものを描写する。

—10、その他

【例4】「汽车很快」と言えても※「很快的汽车」が単独で使えないのは、機能と結びついた形容詞（車のスピードの判定）がその機能を果たすべき機関を修飾することになった場合、「止まっている車のスピードは計れない」という語感が生じることによる。従って「开得很快的汽车」と機能を重視すれば使える表現になる。また、「塞子」は（スカスカの栓）という構造上での欠陥を述べる。

これらの例に加えて「小刀锋利」「锋利的刀尖」の対比も一緒に考察してみると、形容詞の表す意味に「動作・行為に対する評価」と「事物の構造・性質特徴」という二つの傾向がある場合、S型とT型とでは対応する名詞に変化が認められる。

「S型：T型＝ものの機能（動作・動態）：ものの構造・特徴（静態）」

この傾向をもたらす文法的意義特徴を【S型機能】となづけることにする。

「想法牢靠」：「※」と「想法稳妥」：「稳妥的办法」の対や、【例3】の「看法单纯」：「单纯的疑问」や、「手法漂亮」：「漂亮的手艺（職人技の産みだした作品）」などの主語と被修飾語の違いも、【S型機能】が働いた結果とみなせる。

その他の用例では、【例4】の「字好看」：「写好的字 or 漂亮的字」が「写字」という動作と結果（＝生産物）の格関係を持つV－O統合型を反映した構造を示して興味深い。中国語の「字」は動作の生産物として常に「写」との連想で用いられるがゆえに、【T型類】と共起する場合、技のできばえとして分類されるようである。「好看」には技との関わりが無いのに対し、「漂亮」は基本的に技と関わるためにT型でもS型でも「字」と統合できる。

……

【例3】「美好」はS型とT型とで語義的意義特徴が変化すると考えられる。S型では「実現するかしないかわからない理想的な状態である」という意義特徴に呼応して、描写対象格も「前途」「愿望」etc が選ばれる。「生活美好」などは（生活がありそうもないほど快適である）という詩的な表現になる。それに対し、T型では「そのものとして理想的な状態にある」という程度表現の一種となるために、用いられ易くなる。

「热情的话语」は「说话」という離合詞を下敷きに、「热情地说」という人間が動作を行うときの心理状態を描写している。「热情」の描写対象は人間であるので、「话语」を主語にはできないが、「谈话」という人間の行為は（その動作に心理状態がどうあらわれているか）という観点から、描写対象として取り上げられる。

「庄严的国歌声」は「庄严」が持つ相関性の有る3つの語義的意義特徴、「ある場面や雰囲気が原因格となり、人間に権威を感じさせる」、「人間がある権威を保つべく行動する」、「事物が人間に畏怖の念を抱かせる」のうち、後ろの2つにまたがる意味を表す。すなわち、「国歌声」は人間が歌った結果の産物＝歌った人間に権威を感じさせるものである。しかし、場面雰囲気はあらわせないゆえ、S型では用いられない。

「顽固的偏见」は典型的な【T型取り出し】である。S型では使えない。

「高超的记忆力」は（理論的一般水準をはるかに越えている記憶力）という程度表現の一種である。しかし、「记忆力」そのものは人間の機能の一つを表すので【S型機能】として、機能の善し悪しをしめす描写を述語に要求す

ることになる。そのため、形容詞が「好 or 強」にかわる。

……

【例４】では、【述部担当Ｓ型】の例（健康状態についてと出身について）が多い。また、「事态」は意味領域に叙述時点と叙述場面とが常に関わるので、被修飾語にはなれない。「事実」は、「不定時点で実現した事柄」を表示するので、分類の対象にもなるし、【述部内包Ｔ型】でつかうこともできる。

§５－３．分析結果のまとめ

これまで、Ｓ型の文法的意義特徴としてあげてきたものと、Ｔ型の文法的意義特徴として挙げてきたものとをまとめると、次のようになる。

Ｓ型の文法的意義特徴	Ｔ型の文法的意義特徴
Ｓ型格　判断対象、描写対象、経験者、原因、	Ｔ型類
Ｓ型文　堤題、既知／述定、伝達　を受け入れる	Ｔ型感（経験者格は心理動詞に対してのみ）
	Ｔ型特定（既知…主語の資格）
☆述部担当Ｓ型	☆述語内包Ｔ型
☆Ｓ型対比	☆Ｔ型連想
☆Ｓ型機能	☆Ｔ型取り出し

☆印は日本語の形容詞と名詞との統合型にはない文法的意義特徴である。このＴ型の文法的意義特徴に拠って統合された形容詞と名詞とは、Ｓ型への変換は不可能である。なぜなら、これらの総合はＴ型の文法的意義特徴の助けに拠って、はじめて成立したものだからである。また、Ｓ型からＴ型への変換ができるかどうかは、これまでの分析で見られたように、語義的意義特徴の弁別に大きな役割を果たす。逆に言えば、Ｓ型からＴ型への変換は「Ｓ型の文法的意義特徴がその統合にどれほど影響したか？形容詞と名詞の語義的意義特徴のどれとどれを呼応させたか？」に懸かっていると言える。そこには日本語のＳ型からＴ型への変換よりもずっと大きな制限が存在する。

§６．おわりに

今後より多くの用例を集め、Ｓ型とＴ型の文法的意義特徴の違いを、特に類義語の意味分析に役立てたい。また、分析の対象を形容詞と動詞の関係へと拡大して、連用修飾統合型と様態補語統合型の文法的意義特徴を明らかにしてゆきたい。

(注)

(1) 朱德熙　1956「現代汉语形容词研究」《语言研究》第一期

a．—翻訳「現代中国語文法研究」所収

松村文芳・杉村博文、白帝社1988

b．—1982《语法讲义》商务印书馆

(2) 大滝幸子　1993「「人間を形容する形容詞の意義素記述」における日中対照研究」明海大学外国語学部論集第5集

(3) 王力　1944《中国语法理论》商务印书馆……継続相完了相

大滝幸子　1988「知道、明白、懂得の意義素記述」中国語学235号……平相流相異相

(4) 情報処理振興事業協会　1990（解説編・辞書編）

(5) 宮島達夫　1993「調査報告・形容詞の語形と用法」計量国語学19巻2号

(6) 橋本三奈子・青山文啓　1992「形容詞の三つの用法：終止、連体、連用」計量国語学18巻5号

(7) インフォーマントとして依頼したのは次の3名での方である。ともに北京生まれで北京近郊で育った女性。

徐曼（43才）最終学歴・北京大学

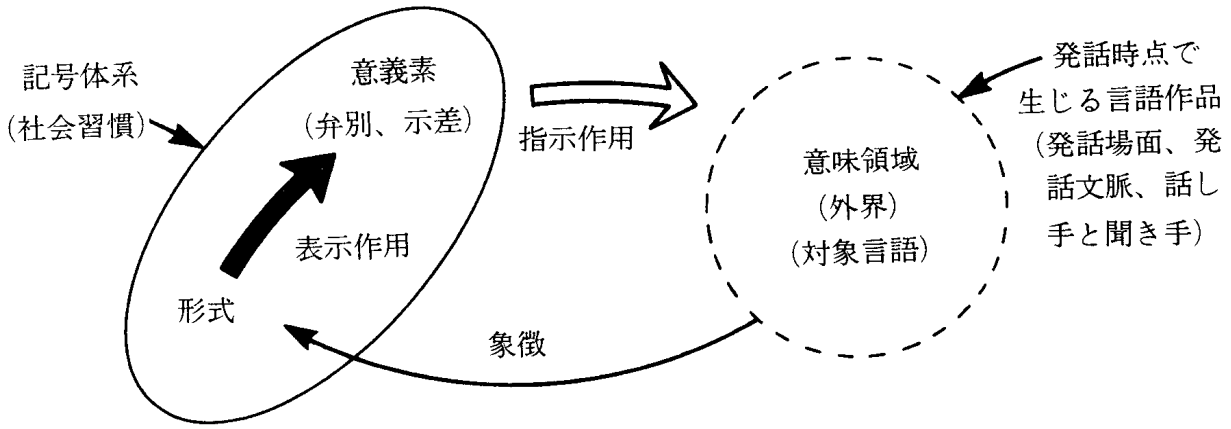
蔡晓军(37才)最終学歴・北京外国語大学日本語学科、実践女子大学大学院博士課程（日本文学）在学中

卢焰（20才）最終学歴・横浜市立大学在学中

(8) 形容词用法词典（郑怀德、孟庆海　1991、湖南出版社）

现代汉语实词搭配词典（张寿康、林杏光主編　1992、商务印书馆）

(9) 言語形式と意味との関係については、「意義素と意味領域」「表示作用と指示作用」の区別を次のように用いる。



(10) 文法的意義特徴は文法的意義特徴と呼応し、語義的意義特徴は語義的意義特徴と呼応

するのが原則であるが、統合意義特徴が表す省略のメカニズムや格の選択および通常の表現と異様な表現との区別は語義的意義特徴とも不可分と考えられる。

また、國広哲弥　1982「意味論の方法」（大修館）p114、では〈意義特徴の抑圧〉として「（意義素内の）意義特徴の一部のみが用いられ、他は抑圧される（完全に姿を消す）場合」（〈部分転用〉と名付ける）を取り上げている。例えば（顔色を読む）etc。それに対し、（象牙の箸、桧の柱）の中の（象牙、桧）などを「焦点が（意義素内の）ある一部（の意義特徴）にあわされるのみ」（この例では全姿が後退して物の材質に焦点が合わされている）とし、〈転移〉と名付けている。本稿では統合意義特徴が語義的意義特徴に影響を与える範囲は、この転移を促すにとどまり、語義的意義特徴を抑圧する機能はないものと考える。

(11) 以後、用いる「不定人称者・第一人称者・表現者・話し手」という術語とその定義は、服部四郎　1956「王育徳台湾常用語彙の研究への序文」の術語と概念を基に、筆者が定めたものである。この序文の中で述べられた服部の文の捉え方を筆者は「文のレベルを言語活動の種類によって4段階にわける見解」と見なし、4種の人格が行うそれぞれの言語活動を「外界の認識と単語の意義素との指示関係の把握、文法に基づいた単語の統合と叙述の営み、統合型どうしの関連付けと論述の営み（メタ言語を用いる）、聞き手の存在を意識した述定と伝達の営み」と解釈した。

★不定人称者＝外界に対する感覚・感情・判断能力を持ち、自立語の弁別的意義特徴を修得した、誰とも特定できない人格者。

★第一人称者＝叙述の営みを行う意志を持ち、統合型の用法とメタ言語の用法（副詞、助詞etc）を修得した、言語行為者。

☆他の文と会話の文との違いは、話し手と第一人称者が分離している（疑似話し手のみ）文と一致している文との違いである。

(12) 日本語（彼は嬉しそうだ）（彼はやはり嬉しいようだ）etc。中国語では少数ながら、「我很～」と「他很～」とで感情に描写に意味の分れる感情形容詞がある。

快活「活動に満足している」「活動的で明朗だ」

快乐「精神的に余裕があり満ち足りている」「いい感じを与える）

痛快「実に気分がいい」「頼みごとを快諾してくれる」

踏实「自信があり、落ち着いていられる」「することが手堅い」

奇怪「不思議がる」「奇妙な様子をしている」

寂寞「寂しげな様子をしている」（「他很～」は両方）

(13) 中国語の単文内部では、意義素または統合意義の指示する意味領域が聞き手にも了解できるもの（一般には旧情報）から、聞き手には了解できなかったもの（一般には新情報）への述べられていくことが定説化している。ただ、この傾向はＳＶＯ言語に共通するものであり、さらにコミュニケーションの原則ともいえる。肝心な言語形式との対応関係つまりどの言語形式が旧情報を表し、どの言語形式が新情報を表すかは、一定の傾向は見いだせるものの、一文ずつ発話場面と発話文脈を検討しなければ正確には決定できない。

一般的に認められるるのは言語形式の表示する意義素または統合意義が「特定の意味領域を指示する」(人称代名詞、指示代名詞、固有名詞、限定的修飾統合型 etc) 含む場合は旧情報を表し易いということぐらいである。

(14) 日本語のT型ではさらに、名詞の指示する事物に由来する文化的に固定化された連想(例えば「青白いインテリ」)を“塗り重ねる”統合意義特徴が目だつ。

(15) 井都和子 1976《変形文法と日本語》第3章、大修館書店
寺井秀夫 1991《日本語のシンタクスと意味III》第8章、くろしお出版
朱德熙 1978《“的”字结构和判断词》中国语文第1期、第2期 朱德熙の説を引用する。「开车的人(運転する人)、他讲的故事(彼が語った物語)」etc と「开车的技术(運転する技術)、他说话的声音(彼が話す声)」etc と異なった構造とする。例えば前者の「开车的」は潜在的主語(本稿の用語では動作主格)を補足した表現(運転者)の意味で独立して使えるが、後者の「开车的」は単用できない。このことは、前者の被修飾語が「开」の潜在的主語であること、または「讲」の潜在的目的語であるために省略できることを示す。

(16) 判断形容詞「早、晚」「快、慢」などを除く。

(17) 感情と描写が分かれる形容詞は、当然描写の意味を表すようになる。また、「～的人」の統合ができない感覚・感情形容詞は経験者格だけを持つ、(＝描写格を持たない)特殊な形容詞と捉えることができる。……「高兴、欢喜、难过、难受、舒服」の5個を確認してある。

(18) 石毓智 1991「现代汉语的肯定性形容詞」中国语文第3期

(19) 「有多大?」(どれくらい大きいですか?→大きさはどれくらいですか?)とは表現しても、「※有多小?」とは言わない。日本語では(どれくらい小さいのですか?)と言える。
(こんな小さい頃から……)の意味で「从这么大……」と言う。また(Aの大きさには及ばない)の意味で「不如A大」とは言っても、「※不如A小」の表現はない。

(20) 「他见识很短。」どは(彼は経験量が少なく、何事に付けても思慮が浅い。)という全人格について語るのに対し、【述語内包T型】だと、(特定の事柄に対して)という限定が加わる。

(21) 述語の要求する格が(発話文脈・発話場面からの補充を含め)すべて充たされたS型どうしを対象として、その間の論理的関係(または事実関係)を探り、論述する言語行為者を「表現者」として第一人称者から区別する。表現者が行なう論述の営みを表わす文法的意義特徴を、「論理意義特徴」として、統合意義特徴から区別する。